

施策評価シート（平成28年度実績評価）

◎ 施策の基本情報

総合計画 中期プラン	政策No.	1-1	政策名	農林業の振興	政策の 目指す姿	農林業者が安定した所得を 確保しています	施策 主管課	農村林務課	施策主管 課長名	佐々木昭司
	施策No.	5	施策名	森林の保全	施策の 目指す姿	森林が健全に育っています	関係課名			
	現状と課題	<p>・本市総面積の約66%を占める豊かな森林は、森林所有者の高齢化や後継者不足により、手入れの行き届かない森林が増えています。</p> <p>・森林には木材生産のほか防災・環境・景観などでの様々な役割がありますが、植樹などの森林保護活動に参加した市民の割合は1割に満たない(市民アンケート)状況です。</p>								

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組実績

<p>(1)森林保全の推進</p> <p>○森林病虫害の予防、駆除</p> <p>・被害拡大防止する区域を定めて伐倒(焼却)駆除を行ったほか、公園、景勝地、個人等の赤松を松くい虫から予防するため薬剤の樹幹注入に助成を行った。</p> <p>また、交通や電話・電気等の市民生活に支障を与える恐れのある被害木の対応を行った。</p> <p>○樹種の転換促進</p> <p>・松くい虫の被害林はもとより、健全な赤松林についても樹種の転換について周知した。</p> <p>(2)森林の多面的機能への意識啓発</p> <p>○水源涵養、地球温暖化対策等森林の有する多面的機能の啓発活動</p> <p>・「豊沢川の森市民植樹会」(主催:豊沢土地改良区)に協賛し、水源地確保の理解を高めるとともに、木工教室や山しごと講座を開催し森林・林業に関心を高める事業を開催した。</p>

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値 区分	H23	H24	H25 (基準年度)	H26	H27	H28
					目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
植樹などの森林保護活動に参加した市民の割合(E-2)	森林を保護する活動を実際に行っている市民の割合を示す指標です。増加を目指します。	出典:花巻市(市民アンケート)	%	目標値				6.0	6.5	7.0
				実績値	-	5.2	4.8	3.7	4.0	4.3
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
D	<p>■成果指標「植樹などの森林保護活動に参加した市民の割合」・・・【達成度c】4.3%であり、市民への啓発活動が不足していると考えられる。</p>

4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名	担当課	施策への貢献度	
	事業内容(実績)		直結度	成果
1	森林保全啓発事業	農村林務課	A	C
	森林が水源林として保全すべきことの理解を高めるため観察事業やイベントの開催 (水源地観察1回、木工体験1回、山仕事講座 初級編・実践編6月～8月)			
2	森林環境保全事業	農村林務課	B	B
	森林保全のため、松くい虫被害拡大防止と森林資源の適正な維持管理 (駆除伐倒909㎡、樹幹注入360本、樹種転換7.24ha、いわて環境の森整備(県民税)161㎡、私有林巡視活動176回)			

5 施策を構成する事務事業の検証

(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)
なし

(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)

- 森林の持つ多様性に対する関心を高めるために、市有林を活用し子供たちや市民を対象とした植樹体験の機会を創出する必要がある。
- 松くい虫対策については、国の予算が減少する中、市内の先端地域である大迫を重点的に駆除事業を行うとともに、近隣市町と連携した駆除等により効果的な景観の保全とライフラインの確保を行う必要がある。また、バイオマス施設を活用した被害木の処理を官民一体となって推進する必要がある。

(新たに取り組むべき事業はないか)

松くい虫被害が蔓延している状況の中で、効果的な駆除と景観保全を確保するため、隣接自治体と連携した取組や、バイオマス燃料として活用を進めるための方策を検討する必要がある。

6 施策の総合的な評価

(課題)

- 市民自らが木材や山林に触れ親しみ、森林の持つ多様性に関心を高めるイベントの企画や森づくりの情報が少ないことから、市民全体の割合から見れば参加者が少ない状況となっている。
- 松くい虫対策は先端地域が北上したことから、国の予算が大幅に減額となっていることから、選択と集中による駆除と近隣市町や市民と連携した取組が必要となっている。

(今後の方向性)

- 水源地視察や木工教室に参加した住民は「また機会があれば参加したい」という意見が多く、市民が自ら取り組む「森林体験事業やシンポジウム」や里山整備等に支援するとともに、市有林を活用した植樹体験などを通じて、森林に対する意識の醸成を図っていく。
- 市内の先端地域である大迫地区を集中的に駆除するとともに、ライフラインの確保と景観保全を目的とした被害木の処理を計画的に進める。また、被害木の有効活用としてと期待されるバイオマス燃料としての活用と樹種転換事業を組み合わせた施策を検討し、森林再生を官民一体となって推進していく。